

令和7年度 第2回 中能登町立鹿島小学校 学校運営協議会 会議録

【日 時】	令和7年9月22日（月）14：20～16：00
【会 場】	中能登町立鹿島小学校 校長室
【出席者】	飯田 一則、池島 正芳、鍛冶 善正、清水 ひとみ 学校長、福井 清久、 山田 哲也（50音順） 学校代表者：高木 宣維 教頭
【欠席者】	大湯 章吉、生涯学習課）平岡
【事務局】	学校教育課：山森担当課長、横山主事 生涯学習課：寺西主査、中瀬主査、山口
【次回予定】	未定

【進行】鹿島小学校：高木教頭

～ 授業参観 ～ （14：20～14：50）

1. 開会あいさつ

《飯田会長》

皆さん、こんにちは。少し涼しくなり、秋を感じる日になった。夏休みは、どうなるんだというくらい暑い日が多く、子どもたちがプールに入れなかった日が続いたが、子どもたちは大きなケガもなく、2学期をスタートしている。先生方が愛情をかけながら教育してきた成果なのではないか。

本日は第2回目の協議会となるが、「ここは少し直した方がいい。」など、いろいろなご意見をいただければと思う。よろしく申し上げます。

2. 学校経営中間報告 ～清水校長・高木教頭より、資料を基に説明～

できるだけ学校の様子を、地域の方や保護者の皆さんに発信していきたいが、コミュニティ・スクールの活動が家庭に浸透していない。今年度は、たくさんの地域の方に、授業サポートに入らせていただいているので、いろいろなところから発信して、ご家庭にも周知していきたい。教員が一人一人を見ながら、個に応じた対応・保護者への声かけ・働きかけなども引き続き実施する。教員の教材研究・事務処理などの時間を確保するため、今年度から火曜・木曜を短縮授業、水曜を5限授業とし、昨年までは時間外勤務が多かった教員も、時間が少しずつ減ってきている。

※意見等なし。

3. 協議

①コミュニティ・スクールサポート実績報告 ～寺西主査より、資料を基に説明～

1学期、積極的にコミュニティ・スクールを活用していただき、専門性のある地域の方々に入らせていただいたことで、子どもたちの理解がより深まっている。ふるさと学習に力を入れていただき、子どもたちは地域に根付いた様々なものに触れることができた。

地域サポーターの皆さんには、子どもたちに丁寧に寄り添ってくださっている。

※意見等なし。

②児童の体力向上に向けた運動・スポーツ活動の推進 ～高木教頭より、資料を基に説明～

10/9(木) 運動会

⇒ 学校運営協議会委員にも臨席依頼。

11/7(金) マラソン大会

⇒ 高木教頭より、コースの説明をし、見守り箇所を確認。地域サポーターには見守りや先導をお願いしたい。教職員は伴走をするが、基本的には後ろから見守る。伴走は数名の提案あり。見守りは民生委員児童委員さんに依頼予定。雨天時は、別日にそれぞれの体育の授業で実施。

11/12(水) 器械運動交歓会

⇒ 県の事業を活用し、体操協会)北口さんに講師を依頼。

1/20(火) なわとび大会

⇒ 2学期後半から強化週間とする。指導や実演など、サポートいただきたい。

【意見等】

- マラソン大会に地域サポーターが入ったり、縄跳びの指導や見守りに入ることはとても良いことだが、ビブスを着用するなど、子どもたちにも、保護者にも、分かるような目印が必要。関係者が把握できている状況でサポートに入ってもらった方が安心。
- 保護者という立場だから、いつでも学校に入れるというのもいろいろな意見が出る。スケジュールを組み、案内・周知し、いつ誰がくるというのが分かれば、保護者にも理解してもらえるのではないか。
- 体力を向上させるのであれば、綱引きを企画してはどうか。綱引きは大人でも楽しめるもの。勝ち負けがあれば、子どもたちも燃えるし、団結もできる。
- なわとび活動について、昨年まではなわとび大会の前後で実施していたが、今年は体力向上も含めて、年間を通して実施。体育委員は、8の字跳びの大会を企画中。

③通学路の危険箇所について ～高木教頭より説明～

通学路の安全点検で挙げられた危険箇所について共有。

残念ながら、徒歩通学の子が少なく、保護者が送迎している状況で、ものすごく渋滞し、子どもたちが駐車場から渡ってくるため、とても危険。横断歩道を設置してもらえよう、要望を出したが、設置することは難しいとのこと。町からは、駐車場としての区切りがないため、バリケードのような形で分けしたらどうかとの話があったが、駐車場内に車が溢れ、より危険。送迎場所を別の場所に設定するなど、対策を検討していく。

県道244号線の交通量が多く、スピードを上げて通る車も多いため、駐在所に定期的な見守りと取り締まりをお願いしている。県には横断歩道がある標識を依頼し、飛び出し注意の看板については、今後、担当の地区をお願いしていく。

通学バス停留所の危険箇所についても、見守り隊を配置するなど、対策する必要がある。

【意見等】

- 県道244号線の問題は20～30年前から続いている。融雪装置がついているため、冬場は特に交通量が増え、雪で歩道がなくなる。保護者の送迎に関しての交通整理は楽になるが、子どもたちは余計に危険ではないか。
⇒学校だけでの対応は難しいが、冬場だけ別の対応・対策ができないか？鹿島体育センターで乗降してもらえれば、今挙げられている部分はある程度緩和できるのではないか。
⇒歩道の除雪は難しいなど、降雪時の問題点がたくさんある。
- 事前アンケートで大湯委員より、「芹川地区の登校坂付近の樹木が、うっそうとしていたり、通学路に隣接している空き地や空き家もあるため、伐採や管理など、対策が必要。問題は、誰が実施するのか？ということ。在所の区長さんや、町行政などにも協力いただきながら、対策を練り、対応していければいいのではないか。」というご意見をいただいている。

⇒管理が行き届いていない、うっそうとしているところは増えてきている。

⇒飯田委員より、区長会で話題に出していただけるよう、お伝えいただく。

- 井田地区（駐在所付近）から小竹地区に下る坂道では、カーブになっているが、スピードを出してくる。数年前には「スピード出すな！」の大きな看板が立ち話題になった。

⇒街頭指導でPTAの方や教員にも立ってもらっているが、警察にも注意喚起を依頼する。

- 二宮地区では、狭い道路の交通量も少ない。気になるところは、冬場の国道。除雪された雪を持っていく場所がないため、業者などに頼んで除雪しているが、追い付かない状況。子どもたちが危険なため、町にも依頼し、たまにダンプで運んでくれているが、頻繁にというのは難しい。各家庭前の歩道だけでも整備していただけたらありがたいが、うまくいかない部分がある。本当なら、健康面・体力面のことも考慮して、子どもたちには歩いて登校してもらいたい。

⇒青葉台では、天気の良い日でも、電車の時間に合わせてスピードを出して駅に向かってくる車が多い。横断歩道もあるため、時速40km程度で走らないといけないと思うが、標識もないため、時速60km以上出してくる車もあり、とても危険。速度を上げてくる車には、警察から注意喚起してもらうようにしているが、なかなか対策が難しい。

⇒中学校では昨年、「バス停（鹿島地区）の乗り降り子どもが危険。」というドライバーからの苦情があった。

⇒何十年も前の話だが、バス停での乗り降り死亡事故があった。尾崎地区のバス停では、S字になっているが、車はスピードを出してくる。集落の中は旧道で、道幅が狭くなっているため、減速するのが普通だが、70～80km出している車もある。

⇒子どもたちに交通ルールを守ってもらうことも重要。学校としても継続して伝えていく。現在お願いしている見守り隊の方の他、保護者の方がバス停で見守ってくださっており、とてもありがたい。一方で、見守り隊がいないところで危険なところもまだまだ多いので、地区に対してお願いできるところ、プラス、学校として子どもたちに指導するところ、保護者にお願いするところなど、検討しながら進めていきたい。

5. 閉会

《鍛冶副会長あいさつ》

大変お忙しい中、参加いただきありがとうございます。いろいろなご意見を頂戴し、とても充実した学校運営協議会になった。これからも、皆さま方のご意見を賜りながら、引き続き、良い学校運営協議会になるよう、頑張っていきたいと思う。本日は、お疲れ様でした。